令和6年産　いなば大麦栽培こよみ

目　標　単収350kg／10a

いなば農業技術者協議会

生育のイメージ

最重点技術対策
- ●排水対策の徹底
- ●酸度矯正による土づくり
- ●計画的な一連の播種作業
- ●播種後の除草剤散布
- ●赤かび病の適期防除
- ●適正な収穫

9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
	発芽	分げつ期				幼穂形成期	節間伸長成	出穂	成熟

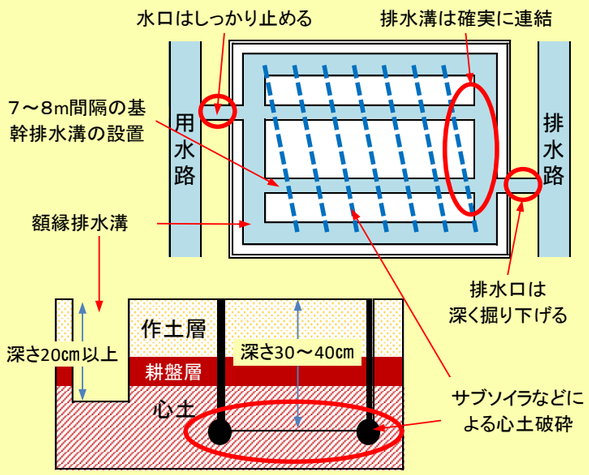
作業名

- ①排水対策
- ②土壌改良資材施用
- ③種子の準備
- ④耕起・作溝・播種
- ⑤雑草防除 土壌処理除草剤
- ⑥追肥 年内
- ⑦排水溝手直し（随時）
- 積雪期間
- ⑥追肥 消雪後
- ⑦排水溝手直し（随時）
- ⑥追肥 止葉展開期
- ⑧赤かび病防除
- ほ場内のカラスノエンドウ抜き取り
- ⑨収穫・乾燥・調製

栽培技術のポイント

①排水対策

水稲刈取り後、速やかに額縁排水や心土破砕を行う



②土壌改良資材等の施用

- ・土壌pH6．0～6．5を確保するためアルカリ資材を散布する

資材	10aあたり施用量	備考
砂状ケイカル	100kg以上	酸度矯正

③種子の準備

播種時期	目標苗立数（本／㎡）	播種量の目安（kg/10a	
		ドリル播	表面散布
9月26日以降	140	6.0	6.5
10月上旬	150	6.5	7.0
10月中旬	200	8.5	9.0

【種子消毒】
『ベンレートT水和剤』 種子重量の0．5%均一に粉衣
※種子10kgに水200mL＋薬剤50g混和

④耕起・作溝・播種

- ・ほ場が乾いたときに、耕起～播種の一連作業を1日で実施する
- ・年内生育量の確保のため、播種は10月中旬までに完了する
- ・ドリル播では播種深度3cmを目標とし、浅まき、深まきに注意

基肥	10aあたり施用量	備考
大麦用544 スーパーSRコート	40～45kg	肥効調節型基肥（一発肥料）
化成肥料14-14-14（全層施肥）	32kg（40kg）	分施基肥（追肥必要）

砕土率60%以上

砕土率40%以下

⑤雑草防除（土壌処理除草剤）

- ・連作ほ場や雑草の多いと予想されるほ場では除草剤を使用する
- ・表面散播したほ場では使用しない

薬剤名	10aあたり散布量	使用時期	適用雑草
リベレーターフロアブル	60～80mℓ 水100ℓ	播種後～麦3葉期（雑草発生前～ｲﾈ科雑草1葉期まで）	一年生雑草
リベレーターG	4～5kg	播種後～麦2葉期（雑草発生前～ｲﾈ科雑草2葉期まで）	
トレファノサイド乳剤	200～300mℓ 水100ℓ	播種後発芽前（雑草発生前）	一年生雑草（ﾂﾕｸｻ、ｶﾔﾂﾘｸﾞｻ、ｷｸ、ｱﾌﾞﾗﾅ科を除く）
トレファノサイド粒剤2.5	4～5kg	播種後発芽前	

除草剤使用

除草剤無使用

⑥追肥

- ・分施基肥栽培のみ生育に応じて行う
（肥効調節型基肥栽培では追肥を行わない）

肥料名	10aあたり施用量		
	年内（播種1カ月後）	消雪後（2～3月頃）	止葉展開期（出穂12日前頃）
硫安	20kg	20kg（茎数により減肥）	10kg（葉色により減肥）

⑦排水溝手直し

- ・排水対策は大麦栽培の”かなめ”
- ・11月下旬の降雪前、2月下旬の融雪期に随時行う

湿害による生育不良

⑧赤かび病防除

- ・赤かび粒の混入限度は0．0%です
- ・開花状況を確認し2回防除を徹底する

防除時期	薬剤名		10aあたり散布量	
1回目 穂揃期	粉剤	トップジンM粉剤DL	4kg	
	液剤	トップジンM水和剤	薬150g	水150ℓ
2回目 1回目から7日後	粉剤	ワークアップ粉剤	3kg	
	液剤	シルバキュアフロアブル	薬75ml	水150ℓ

赤かび病

⑨収穫・乾燥・調製

- ・ほ場内のカラスノエンドウを収穫前に抜き取る
- ・子実水分30%以下になったら収穫開始
- ・乾燥仕上げ水分13．0%
- ・網目2．3mm使用での調整

『カラスノエンドウ』の侵入